

白金児童館 むかし話

白金児童館は、日本で4番目、愛知県で1番目に生まれた児童館です。

これまでの白金児童館の歴史を紹介します。

文章は名古屋市白金児童館・名古屋市白金保育園編集発行『社会館から児童館・保育園へ（45年のあゆみ）』（昭和57年）を基に作成しました。モノクロの写真も同書のものを引用しました。

1. 社会館の時代

昭和12年（1937年）5月に、前身である社会館が当時の中区白金町の紡績工場跡地に開館しました（のちに昭和区へ編入）。社会館は「教化並ビニ慰安娯楽」「福利事業」「診療」「乳幼児保育」「身上、職業、健康等ノ相談」などを実施し、当初は講堂、食堂、理髪店、日本間、診療部、保育室、結婚相談所などを備えた地上3階地下1階の建物でした。翌年4月に「中央社会館」に改称され、市内に複数の社会館が誕生しました。

昭和20年3月12日の空襲時には、中央社会館付近にも火の手が上がり、地下室の被害が大きかったものの、鉄筋建築のために全焼を逃れ、保育部はほとんど無傷で、近辺の被災者の一時避難所として利用されました。保育部は警報発令の間を縫うように事業を続けていましたが、「中央勤労館」に改称された4月1日に休止となりました。

2. 保育の道へ

昭和20年（1945年）の終戦後、11月に保育部が再開し、昭和21年2月には保母養成講習会が開かれ、4月には3階に保母養成所が定着するとともに、名称も中央社会館に復帰しました。戦災により国民学校の校舎として一部が使用されたり、昭和区役所が転居してきたりした時代もありました。昭和23年に施行された児童福祉法の影響により、保母養成所は「名古屋市保育専門学校」として、全国のトップを切って厚生大臣の指定を受けて授業が行われました。さらに社会教育法の施行などにより、社会館事業が法的に分化され、国や県などの財政的バックアップがないことなどから、施設のあり方が再検討されることになりました。



3. 児童館出発

昭和25年（1950年）4月、中央社会館は児童福祉法による児童厚生施設「名古屋市児童館」に改称され児童館がスタートしました。保育部は「保育専門学園附属保育園」となり、児童館から分離しました。昭和28年には保育専門学園が「名古屋市立保育短期大学」に昇格し、翌年の市議会で児童館を保育短大の研究施設として併用すべく条例が改正され、「名古屋市立保育短期大学附属児童館」になりました。昭和37年には付属保育部が「白金保育園」に、40年には付属児童館も「白金児童館」に改称され、保育短大は東春日井郡旭町（当時）に移転しました。



4. すばらしい明日を目指して

大阪万博の昭和45年（1970年）には、児童館利用が8万人に達し、翌年5月は昭和区川名山町に児童福祉センターがオープンし、中央児童館も開館しました（平成22年3月閉鎖）。

国際児童年の昭和54年には「1区1児童館達成後は白金児童館の改装に着手する」との基本線が示され、57年に1階を保育園、2階を児童館、敷地西南にコミュニティーセンターが設置されることになりました。改装中は、白金小学校の一隅の仮施設で業務を行い、昭和58年に工事が完了し、現在に至っています。



長らく市直営でしたが、平成16年4月から指定管理者制度が導入され、指定管理者が管理・運営を行い、市民の皆さんに安定した社会福祉を提供すべく、一層の充実・発展を目指しています。

平成16年4月～名古屋市社会福祉協議会

平成24年4月～名古屋市昭和区社会福祉協議会

平成28年4月～こころん・ふりあんコンソーシアム

（名古屋市社会福祉協議会と特定非営利活動法人わが家流子育て応援団ふりあんの協働事業体）